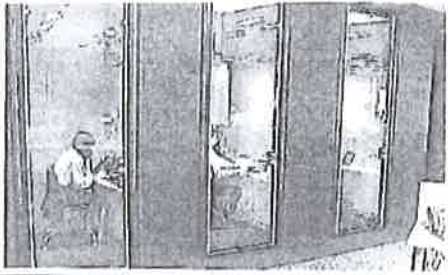


ルキー洋賣を招き、考え方を取り入れる。働く人が照明の暗さや室温の高さなどを我慢するのではなく、エネルギーをかける場所にメリハリをつけて省エネを図る。

例えばオフィスにあるデスクが午前9時から午後6時まで、どの程度使われているかを調査す



電話や集中したい仕事で使う新オフィスの内装

ネルを設置した。発電出力は約4・6キロワット。経済産業省は2030年までにビルのゼロ・エ

エネルギーを投入するようにする。

シービーアールイーでは4月、自社の東京本社を移転した際に実施した。デスクの利用率は61

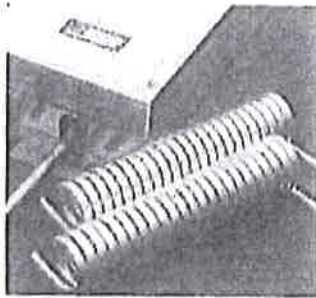
コイルの開発を手がけるイーティーイー（埼玉県深谷市、岡本智子社長）は冷房や冷凍機の室外機に取り付けることで消費電力を20%以上削減できるコイルを開発した。銅管をらせん状に巻いた構造で、電気を使わずにメーカーを問わず設置できる。

「ミラクルコイル」は写真と並び、銅管の太さや巻き方、巻く向きなどを冷凍機の出力に合わせて調整できる。

イーティーイー

冷房や冷凍機

2割節電



外気が30度程度の場合で25%程度消費電力を減らせるという。各場も平均10%程度削減できる。神戸大学などでの実験で、冷媒の温度が下がり、室内を効率的に

室外機に付けるコイル

冷やせる効果を確かめた。試験導入した関東運輸（前橋市）の倉庫では、保有する冷蔵・冷凍庫の25台で、年間の電気料金を3割削減できたという。倉庫やデータセンター、サーバーなどに売り込む。工事費も含めて2年半から3年程度で投資額を回収できるようにする。費用は5・5〜7万8000円。イーティーイーは2012年の設立。13年の売上高は1500万円。当面は5億円規模の事業に育てる。

だった。大会議室も半分以上が4人以下で使っていた。この調査に基づき、新オフィスでは席数を社員数の4分の3程度に減ら

イス設計をした。その結果、従来に比べ紙の利用が9割抑えられ、事務作業のスペースを減らすにオフィスの延べ床面積を2割削減で

同社では顧客企業への提案と同時に、移転前に実験的なオフィス利用を体験してもらうなどのサービスもする。（小河愛実）

ネルギー化を進めている。太陽光発電などによる省エネは不可欠だが、屋上に設置する太陽光発

電だけでは消費エネルギーの半分が発電量が足りないとの指摘もある。こうしたことから三

井住友建設では外壁に取り付ける太陽光発電システムの需要は高まると見ている。

トは下がる。来週は横ば

充した。従来は省エネ制御向けの通信標準規格「エコーネットライト」に対応していたが、これ以外の複数の通信規格を使った機器でも接続でき